

ゆめっとフライヤー

2000 ➤ 2001

★YUMETTO DISCUSSION

『これからのまちづくりと学校』

～地域と共につくる教育を次世代に～

安城市長 杉浦 正行氏

犬山市長 石田 芳弘氏

建築家 堀尾 佳弘氏

学校法人安城学園 理事長 寺部 晃氏

愛知学泉大学コミュニティ政策研究所長 山崎 丈夫氏

★愛知学泉大学コミュニティ政策学部 学生座談会

『私たちが探す 新たな生き方』

～まちづくりから、21世紀のライフスタイルを考える～



祭り



音楽

CONTENTS

愛知学泉大学オーケストラ クリスマスコンサート

愛知学泉短期大学 こどもまつり

安城学園高等学校 サルビア秋祭り&安城サンクスフェスティバル

岡崎城西高等学校 障害者との交流(文化祭&インターラクタ部)

幼稚園 資源回収&地元老人会との交流

愛知学泉大学 学生主催のパソコン講座

安城学園高等学校&岡崎城西高等学校 土曜講座&オープンセミナー



エコロジー



他
ボランティア



生涯学習



あなたの
ご意見
募集中!



学校法人

安城学園



犬山市では今年8月に青塚古墳史跡公園がオープン。古墳時代の食体験やもの作り体験などのイベントが開かれました。



犬山鵜飼は、三代城主成瀬正親が御料鵜飼として万治2年(1659)に始めたものといわれています。昭和39年には、「木曽川犬山鵜飼漁法」を市の文化財に指定して、伝統の維持に努めています。

石田 まちづくりには不易と流行、変わつてはいけないものと時代に合わせて変えていかなければならぬものの2つの柱があると思います。不易のほうは、自分のまちはどういうまちかというアイデンティティを絶えず忘れないことが大切です。それがまちへの愛情や誇りになっていきます。愛情や誇りがないまちはどんなにお金を投入しても、決して「良いまち」にはなりません。犬山市は、市川・文化の揃った「ウイーンのようなまちづくり」を合言葉に、市民みんながこのまちに愛情と誇りをもち、理想のまちを創つていただとを考えています。一方、流行については、環境問題、国際化、情報化、少子高齢化など、時代の要請に合わせた政策を開拓していくことが重要です。犬山市は、新総合計画として「木曽の流れに古城が映え、ふれあい」という6つの「もり構想」を掲げております。これら個々の具体的な施策のもとに諸問題を取り組んでまいります。

堀尾 アイデンティティという言葉がでましたが、三河地域と尾張地域では人の気質や風俗、習慣が違うと思います。それぞれの地域によって、人の持つ雰囲気がコミュニケーションを変えていくことはあります。

石田 子供たちは学校の中だけでは成長しません。

堀尾 現場で学ぶ社会体験は重要な成長しません。

りを進めてまいります。

石田 まちづくりには不易と流行、変わつてはいけないものと時代に合わせて変えていかなければならぬものの2つの柱があると思います。不易の

ほうは、自分のまちはどういうまちかというアイデンティティを絶えず忘れないことが大切です。それがまちへの愛情や誇りによっていけます。愛情や誇りがないまちはどんなにお金を投入しても、決して「良いまち」にはなりません。犬山市は、市川・文化の揃った「ウイーンのようなまちづくり」を合言葉に、市民みんながこのまちに愛情と誇りをもち、理想のまちを創つていただとを考えています。一方、流行については、環境問題、国際化、情報化、少子高齢化など、時代の要請に合わせた政策を開拓していくことが重要です。犬山市は、新総合計画として「木曽の流れに古城が映え、ふれあい」という6つの「もり構想」を掲げております。これら個々の具体的な施策のもとに諸問題を取り組んでまいります。

寺部 明治以降の日本の学校教育は、国づくりのための人づくりが大きな柱でした。その結果、戦後の飛躍的な発展がありました。国づくりが一定の段階に達した今、地域づくりが重要な課題になっています。安城学園は明治45年、女性の地位向上を目指し「安城裁縫女学校」を開校したのが出発点です。当時、女性が社会で働くという風潮はなく、まさに建学の理念である「庶民性と先見性」が実践されたわけです。この創立者の情熱によって蒔かれた種は地域の中で着実に育ち、本学園は現在三河地域における重要な教育機関としてその役割を担っています。安

寺部 アイデンティティが地域への誇りや愛情の原点です。



犬山市長
石田 芳弘氏

昭和20年生まれ、犬山市出身。愛知県議会議員などを経て平成7年より現職。郷土芸能など地域文化を尊重した教育の推進に取り組んでいる。また、教員の人事システムを県ではなく市町村教委に委ねるよう問題提起するなど、地域主導の学校づくりを提案している。



安城市長
杉浦 正行氏

昭和11年生まれ、安城市出身。愛知県議会議員などを経て平成3年より現職。平成10年に『地球にやさしい環境都市宣言』を行い、市町村レベルでは数少ないISO 14001を取得するなど、先進的なまちづくりに取り組んでいる。

座談会



学校法人安城学園 理事長・学園長
愛知学泉大学 学長

愛知学泉短期大学 学長
寺部 曜氏

昭和23年生まれ、安城市出身。岡崎城西高等学校などを経て平成8年より現職。平成9年4月、大学に日本で初めてのコミュニティ政策学部を開設。「地域と共につくる学校」を学園のテーマに掲げ、地域との関わりを重視した学校づくりを推進している。



愛知学泉大学コミュニティ政策研究所長
山崎 丈夫氏

昭和18年生まれ、福島県いわき市出身。東海自治体問題研究室事務局長などを経て、平成9年4月より愛知学泉大学コミュニティ政策学部助教授、平成12年4月に同研究所長に就任。専門は「地域社会論」「地方自治論」。「安城まちづくり市民会議」アドバイザーを務める。



●コーディネーター
建築家
堀尾 佳弘氏

昭和21年生まれ、安城市出身。安城市中心市街地や更生病院環境プロデュースなどに携わり、建築にとどまらず歴史や自然環境にあったまちづくりをトータルに手掛けている。「安城まちづくり市民会議」文化・スポーツ委員会委員長を務める。

これからのかまちづくりと学校

～地域と共につくる教育を次世代に～

地域の時代といわれながら、現在私たちが暮らす地域社会はいろいろな問題を抱えています。
誰もが安心して快適に暮らせるまちを実現するために、私たちは何をなすべきなのでしょうか。

「地域と共につくる学校」をテーマに掲げる安城学園にとっても、
学校がまちづくりにどう関わるのかを考えていくことは重要な課題です。

そこで、安城市的杉浦市長、犬山市の石田市長をお迎えして、
これからのまちづくりと人材育成、地域における学校のあり方などについて話し合っていただきました。



環境都市を目指す安城市では、リサイクルプラザを設け、ビン・缶などの分別はもちろん家具等の再生を行うなど様々な取り組みが始まっています。

寺部 リカレント教育と言われるよう、今後はもっと大きくなつていいでしょう。安城学園では、学生・生徒・園児に教室を飛び出して地域の中で学ぶよう先生方に指導してもらっています。また、学校を保護者や地域の方々にも積極的に開放し、利用していただけるような取り組みも行っています。**山崎** 人は現場で育つ部分が大きいと思うんです。本学の「コミュニティ政策学部」に、地域での現場学習となる「コミュニティ運営実習」という授業があります。これは、行政・企業・市民団体など地域のいろいろな現場に出かけていき、そこで起つている様々な諸問題を体験し、そこの方々と協力して具体的に解決を図ろうというものです。地域には環境ごみ・高齢社会への対応など、いろいろな問題が山積みです。コミュニケーション学部はこうした問題を解決し、私たちが暮らす社会の中で人々が自立と共生できるような人間関係をもつ集団(コミュニケーション)と地域像をつくり上げることを目指しています。まさに「地域の時代」が望んだ学部です。

石田 今、多くの人々が自分たちの地域の質みたいなものをよくわからないまま毎日暮らしているのではないかと思う。画一的なライフスタイルしか知らない若いたちはなおさらです。そうした意味でも、学生さんが現場へ出て、幅広い年齢層の人と触れ合い、社会の実際の姿を見るといふ

行っています。これは、地域の誰もが学べる環境を学園として提供したいとの思いからスタートさせた学泉塾です。地域に「学びの泉」を広げたいとの思いから、今年の2月に安城市で始まって、7月には豊田市、今後は岡崎市でも計画しています。10月14日に安城市民文化センターで開催する第4回安城学泉塾は、最近の地方分権の流れと切り離せない地域通貨がテーマです。地域通貨は、互いに助けられ支え合うサービスや行為を地域活性化に役立つものとして、世界2600ものコミュニティで試みられています。安城市でも実現することを願っています。

杉浦 大学と地域の関わりにはいろいろな方法が考えられます。まちづくりをどう行うかなどをプランニングに参加していただくこともそうですし、安城市民公開講座や学泉塾のような市民大学方式で、先生方が持つておられる知識を市民に提供していただくという方法もあります。実際に、市長という立場から見ても、市の職員には実務を経験した上で、そこでの課題を持つてもう一度大学で学んで欲しいと考えています。市の職員に限らず、一般企業に勤めている人たちも同じではないでしょうか。実社会へ出た後の方が本当に学びたいことが発見できますし、生きた学問が身につくと思います。

石田 同感ですね。今のお話を聞いて皆さんと観察で訪れた世界的環境都市・フライブルグを強烈に思い出しました。ごみ問題一つをとっても行政と市民の意識がつになつてまちづくりを実践している姿に、正直頭をガツンと叩かれました。これらの行政には戦略が大切だと思います。将来を担う職員たちは、少子高齢化や環境問題など、大変重大な問題に取り組まなければなりません。それにはやはり理論武装も必要です。大学にそういう環境を準備していただければ、職員をぜひとも再教育していただきたいですね。



▲運営実習を行うコミュニティ政策学部の学生たち。
東海市にある東邦ガス・ガスエネルギー館で行われたエコ・フェスタで「ケナフの紙すき教室」を担当、学生たちの力で企画・運営しました。



安城七夕まつりでは、安城学園高校吹奏楽部のパレードは恒例となっています。

のは大切なことです。
杉浦 安城市では、「安城ルネッサンス」と銘打った中心市街地活性化基本計画の実現に向けた活動を行っています。これは、七夕まつりや明治用水・新美南吉などの歴史文化、日本デンマークとしての伝統を見直して、みんながまちを愛する舞台づくりをしていくのです。こうした活動に、安城学園高校の生徒さんが参加してくれていますが、その輪が今後もっと大きく広がっていくことを期待しています。地域や地域の人々、学校やそこに学ぶ生徒さんが「安城市の顔」でもあるわけです。

石田 私共も、犬山の豊かな自然、城やお祭りなどの独自の文化の素晴らしさを再認識している、という活動を行っています。先ほども触れたが、まちづくりには自分のまちに対する愛情や誇りを持つことが大切です。そのためにも、まず自分のまちの良さを知らなければなりません。そしてその上で、私たちが「こういうまちをつくりたいんだ」と市民の皆さんに語りかけていくことが大切だと思います。浸透するには時間がかかると思いますが、これからも語りかけてまいります。

大勢参加されて、市民の方たちとディスカッションを重ね、自分たちのまちは自分たちでつくつていこうと様々な活動を行っています。こうしたことでも、いかがでしょうか。
寺部 学校特に大学ですが、ただ単に象牙の塔として存在しているのではなく、まちのあらゆる問題に対し学問的な協力を積極的に行いたいと考えています。安城学園の建学の理念は「庶民性と先見性」です。現在、国家の時代から地域の時代へ移り変わっています。この時代の中で、本学3つを対象に、それぞれ生活学(家政学部)・経営学(経営学部・政策学(コミュニケーション政策学部))と、3つを対象に、それぞれ生活学(家政学部)・経営学(経営学部・政策学(コミュニケーション政策学部))と、これを大学の取り組みとして考えるならば、地域社会へ貢献できる大学となることでしょう。

愛知学泉大学は、人間・企業・コミュニケーションという学問的アプローチをもっております。本学園の根拠地は「三河」です。現在、安城市を含む碧海5市構想も進んでいるようです。今後は、この

三河という地域のまちづくりに教育文化で貢献できるものを安城学園として提案していくたいと思います。このことがまたこれからの地域社会へ貢献できる方ではないかと思います。
堀尾 安城学園さんは大学における市民講座、ワープロ講座、オーケストラ演奏、高校における上級講座、オーブンセミナー、吹奏楽和太鼓演奏、地域の人々とともに上げる学園祭など、いろいろな面で市民との交流の場を持つておられますね。海の教育委員会と協力して昨年から始めた安城市民公開講座や、豊田市におけるまちづくりシンポジウムや地域のリーダー研修など、市民を対象にした様な講座を開講しております。受講していただくなれば、地域ごとにいろいろな問題を抱えておられ、その解決に貢献するために、今後も出来る限り行いたいと考えています。
寺部 堀尾さんに紹介いただいたように安城学園の大学・高校では地域との様々な交流を行っていますが、安城学園全体としての取り組みも

社会人が集う学園に、 新しい可能性がいっぱい。

社会人が集う学園に、 新しい可能性がいっぱい。

堀尾 私も参加していますが、安城市には「安城まちづくり市民会議」という市民組織があります。安城学園高校や愛知学泉大学の先生方も層の人が集まっています。安城学園高校や愛知学泉大学の先生方も

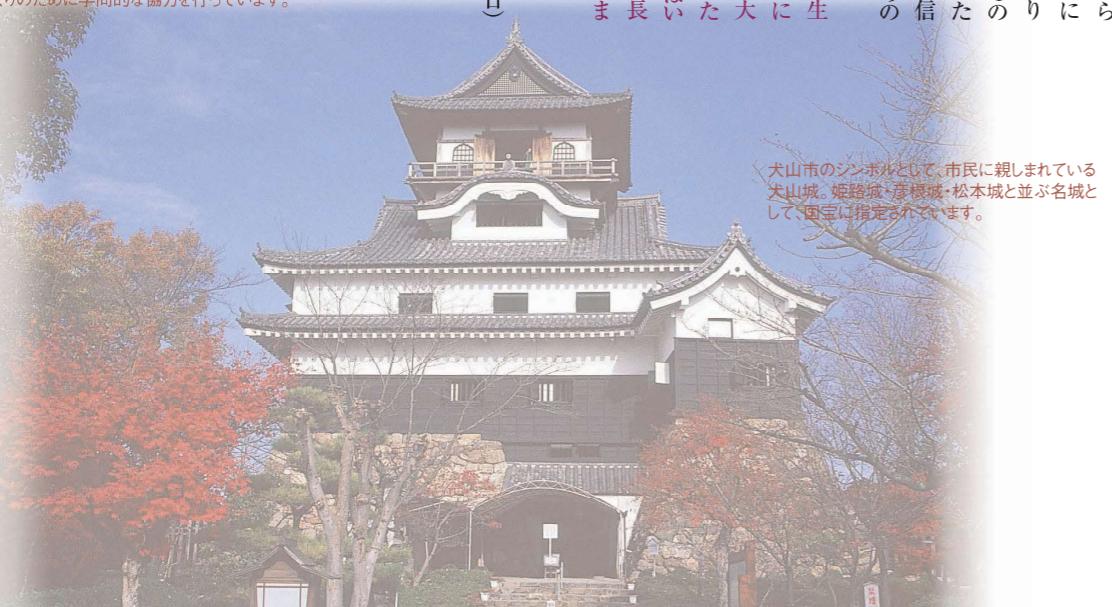


▲今年7月、環境先進都市・フライブルグ視察ツアーにて
左から石田氏、1人おいて寺部氏、杉浦氏、堀尾氏



▲ドイツ・フライブルグにあるフライブルグ大学。
ここでは、大学がまちにしっかりとけ込んでおり、原子力に頼らないエネルギー供給の方法など、エコロジカルなまちづくりのために学問的な協力をしています。

(実施日／平成12年9月29日)



犬山市のシンボルとして、市民に親しまれている犬山城・姫路城・彦根城・松本城と並ぶ名城として、国宝に指定されています。



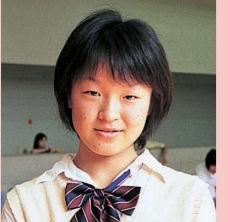


2000年文化祭テーマ 『Change Myself』 バリアフリー2000 ドミノ

岡崎城西高等学校文化祭 9月30日(土), 10月1日(日)

スポーツだけではなく、充実した文化部の活動でも知られる岡崎城西高校では、地域の問題を取り上げたシンポジウムを行ったり、この地方の伝統文化に目を向けた企画を数多く実施し、地域に根ざした文化祭を開催しています。

ドミノ倒しに参加して



岡崎聾学校 高校2年
山地 希美恵さん



岡崎聾学校 高校2年
武田 恵さん



岡崎聾学校 高校2年
徳満久美子さん



岡崎聾学校 中学3年
徳満 信子さん

少人数の学校にいるので、他の学校の人たちとの交流はとても楽しみにしていました。ドミノも一度挑戦してみたかったので、今回声をかけていただき、とても感謝しています。城西の先生や生徒さんは大変親切で、学校の楽しそうな雰囲気も伝わってきました。

心の壁を取りのぞこう!
知り合うことから始まる心のバリアフリー

今年の文化祭テーマは「エンジ・マイセルフ」。一人ひとりが変わることによって、全体を大きく変えていく、というもの。そこで僕たちも、「自分の中の障害者への見方を変えていこう」というコンセプトを打ち出した企画に取り組みました。普段障害者の方々と接する機会はなかなかないため、どうしても見えない心の壁ができてしまうのだと思います。そこでドミノを楽しみ、知り合うことで心の壁を取りのぞこう、と皆に呼び掛けました。その後、呼び掛けに多くの生徒がこたえてくれ、岡崎盲学校と聾学校の生徒さんと一緒に、今年はなんと10万個のドミノに挑戦! またたく間の交流でしたが、それが心のバリアフリーを感じた一日であったと確信しています。



こどもまつり

愛知学泉短期大学・幼児教育科
11月3日(祝)

子どもたちに夢を大きく広げてほしい、そんな思いから出発した愛知学泉短期大学幼児教育科の「こどもまつり」。幼稚園教諭や保育士を目指す学生たちが心を込めてつくり上げるこのイベントは、子どもたちのお祭りとしてすっかり地域に定着しています。



第22回となる今年のテーマは「みつけた!おかしなおかしの国!」。キャンディーの形をした包みの中には、一体何か? 子どもたちは興味津々です。

こどもまつりに参加するのは今年で3回目です。最初の年はまだ子供が小さかつたので見ているだけでしたが、昨年からは学生さん手づくりの遊具で遊びたり、跳ねたり、くぐったり…。とても喜んで遊んでいます。もう少し大きくなれば、ステージでの歌や踊りにも参加できると思います。今年も学生さんたちが、色々工夫して作られたしきけや飾りに子どもも大喜びでした。私たちをこのお祭りに誘ってくれたのは安城に住む親戚です。どちらでは地域に定着した秋のお祭りと知っているようですね。来年もぜひ、参加したいと思っています。



毎年大好評のお餅つき。ついた後は、きなこやあんこのお餅を頬張って「おいしい!」

学生さん手づくりの遊具で遊ぶのを毎回楽しみにしています。



伊藤 浪代さん・朱音ちゃん
(碧南市在住)



「安城七夕まつり」「豊田おいでんまつり」「岡崎光夏まつり」「安城サンクスフェスティバル」など、この地域には多くの祭りがあります。こうした地域のお祭りに学生や生徒が積極的に参加したり、それぞれの学園祭で地域の方々との交流を図っています。本学園は、教室の中だけではなく、地域の中で学ぶ環境を大切に考えています。



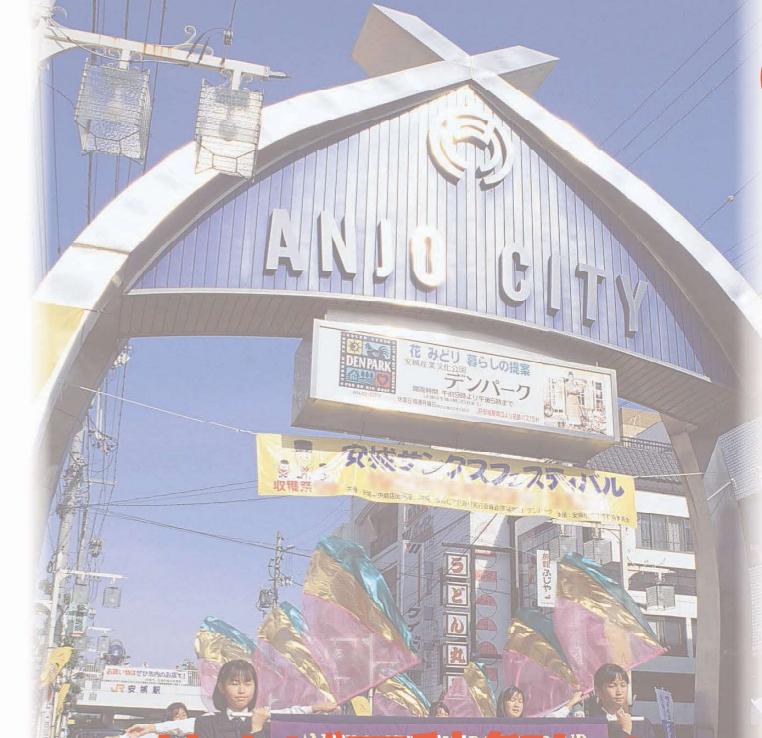
安城学園高等学校
神谷圭司くん(左)と山本昌吾くん

商店街で僕らが行った企画は「エコエコランド」。子どもたちにペットボトルや空き缶を持ち寄ってもらい、量に応じてエココインを発行。そのコインでゲームを楽しんでもらおうというものです。子どもたちがうれしそうに空き缶などを持つてくると僕たちも楽しい気分になりました。



安城学園高等学校 教頭
山下 辰夫先生

響きあえ! まちと学校。
昨年から始まった学園祭とサンクスフェスとのタイアップ。これに伴い、学園祭の名称も「サルビア秋祭り」と改め、生徒も教員も、企画の段階から商店街の人たちと話し合いを進めています。その中で生徒たちは、町の人の知恵とエネルギーに触発されて、自ら意欲的に祭りづくりに取り組んでいます。そして、町の人々から声をかけられることにより触れ合いを実感し、認められることにより自分の存在意義を見つけています。私たちは、もはや教育の場は学校の中だけではないと考えております。生徒たちを市民の皆さんと共にコミュニティづくりに参加させ、学校の枠を越えた交流の中で自分の「居場所」を確認させたいと思っています。そのためにも地域の学校として、まちと響きあえる取り組みを求めていきたいと考えています。



サルビア秋祭り&安城サンクスフェスティバル

地域と共にくる学園祭 10月28日(土), 29日(日)

今年で2回目となるサルビア秋祭り。今年も安城中央商店街連盟の皆さんと協力して安城のまちを盛り上げました。JR安城駅前から高校周辺までを会場に、JC(青年会議所)や安城まちづくり市民会議、西三河フェスティバルなど様々な団体とも協力して行われるこれまでにないネットワーク型のイベントです。

私たち「これからまちづくり」という視点でサンクスフェスティバルに取り組んでいます。安城が魅力ある元気なまちになるためには若い人たちのパワーが必要です。昨年からの祭りを総につくり上げるようになり、生徒さんと商店街が大変身近くに感じられるようになりました。さすがに子どもたちの年齢も若いだけあって、楽しそうな雰囲気が伝わってきました。生徒さんも店舗を使って子どもに向けるゲームを企画してもらいました。さすがに子どもたちを変えていくものだと思います。

これまで商店街はただ通り過ぎるだけの場所であったと思います。しかし、こうした交流がお互いの意識を高め、やがてまた変わっていくものだと思います。



安城市中央商店街連盟
イベント部会部会長
鶴田 伸也さん

学園高校の生徒さんとの交流で、ますます商店街が活気づいてきました。

ボランティアを通して育む「自立と共生」。

本学園では、自分が暮らすまちや地域に関心を持ち「まちづくり」に積極的に関わっていける人間、また、真心と奉仕の精神を備えた人間の育成を目指しています。そのため学園全体としてボランティア活動を奨励し、多くの園児や生徒、学生があらゆる方面で自主的な活動を行っています。

今年9月の水害で大きな被害の出た西枇杷島地区へも生徒や学生が派出、復旧活動に汗を流しました。

地域へ飛び出し、世界を広げる

愛知学泉大学 家政学部生活文化コース
リズム（観光・レジャー産業などを研究する内田ゼミに所属しています。「旅に出で五感を磨け」が合言葉のゼミだけに、授業で日本各地へ出掛けることも多く、楽しみながら旅の奥深さや観光産業への理解を深めることができます。また、同コースは海外研修が必須となっていますので、世界を学ぶことも可能です。ボランティア活動も、自治体の観光課などが主催するイベントへの参加が多くなっています。中でも大変勉強になったのが足助町の「足助ルネッサンス」と、

下山村の「ウォーキングラリー」です。このイベントに参加してみて、高齢化・過疎化が進む地域において、若者に働く場を提供するために観光産業の果たす役割がいかに重要なことがわかりました。活動をされている年輩の方々と接することにより多くのことを学びました。また、地元の若い人たちが自分たちのまちの将来を真剣に考えている姿を感じました。私たちの活動は小さなことですですが、今まで知らなかつた社会を見ることができ、将来へむけての大きな収穫となりました。

足助ルネッサンスのイベントにアシスタントとして参加。木工教室で竹細工や竹トンネルの人力車「リキヤマ」の試乗や運転手を務めるなど、4日間にわたりイベントの運営に携わりました。



後列左から岩元千晶さん、杉山綾子さん、蓑輪美由紀さん
前列左から萩野貴子さん、鈴木千晴さん



足助ルネッサンスのイベントにアシスタントとして参加。木工教室で竹細工や竹トンネルの人力車「リキヤマ」の試乗や運転手を務めるなど、4日間にわたりイベントの運営に携わりました。



男の子たちは竹トンボ、女の子たちはお手玉を作っていただき、遊び方を教わりました。
「50年ぶりで竹トンボを作り、童心に帰って楽しめました」と感想をいただきました。



安城市養護老人ホームを慰問
桜井西町老人会代表 牧野 光次さん
桜井幼稚園の皆さんとの交流は、昨年から始まりました。前回は子どもたちのお遊戯を見せていただきましたが、今年は一緒に何ができるのか、との相談を園長先生よりいただきました。我々の手づくりの竹トンボやお手玉で一緒に遊ぼう、ということになりました。桜井地区には24の老人会がありますが、私たちのように地元の園児さんとふれあいう機会を持っている会はなく、皆さんから、「なかなか良い交流会をやってるね」と注目をされています。今後、このような子どもたちと老人会の交流の輪がもっと広がるとよいですね。



西枇杷島小学校で復旧活動を行った安城学園高校の生徒たち。岡崎城西高校の生徒や愛知学泉大学の学生も、ボランティアに駆けつけました。

地元老人会の皆さんと交流

安城学園桜井幼稚園

核家族化が進んでいる現在、おじいちゃん・おばあちゃんと接する機会の少ない子どもが増えています。安城学園の3園では地元老人会の皆さんを各園へお招きし、子どもたちとの交流会を行っています。

桜井幼稚園との交流を行っている老人会の代表者にお話を伺いました。



男の子たちは竹トンボ、女の子たちはお手玉を作っていただき、遊び方を教わりました。
「50年ぶりで竹トンボを作り、童心に帰って楽しめました」と感想をいただきました。



安城市養護老人ホームを慰問
桜井西町老人会代表 牧野 光次さん
桜井幼稚園の皆さんとの交流は、昨年から始まりました。前回は子どもたちのお遊戯を見せていただきましたが、今年は一緒に何ができるのか、との相談を園長先生よりいただきました。我々の手づくりの竹トンボやお手玉で一緒に遊ぼう、ということになりました。桜井地区には24の老人会がありますが、私たちのように地元の園児さんとふれあいう機会を持っている会はなく、皆さんから、「なかなか良い交流会をやってるね」と注目をされています。今後、このような子どもたちと老人会の交流の輪がもっと広がるとよいですね。

一人暮らしのお年寄り宅を訪問

安城学園高等学校 インターアクト部

岡崎城西高校のインターラクター部は、今年で創部33周年を迎えます。「奉仕と国際理解」を目標に、地雷撤去のための募金活動や『障害を考える』と題したシンポジウムの開催など、様々な活動を行っています。今回は、20年近くも続く岡崎盲学校の皆さんとの交流の様子を中心にお話を伺いました。

今年7月、盲学校の生徒さんたちとの交流会『海に親しむ会』を行いました。これは僕たちが全てを企画・運営する初めての会です。皆さんが安全に楽しく過ごせるよう、打ち合わせを何度も繰り返し、本番に臨みました。実際に接してみて、自分が不自由とはいっても、ちょっと介添えをしてあげれば、全く問題なく一緒に遊べることがわかりました。しかし最初の頃は、どのように手を差し伸べたらよいのかわからず、ギクシャクしてしまったように思います。交流を重ねることによって、障害も二つの個性であり、社会は色々な人がいて成り立っているということを感じるようになりました。今は自然に友人としてつきあえることを嬉しく思っています。

年に2~3回、安城学園高校の生徒さんたちが来て下さるのを、本当に楽しんでいます。来ていただく生徒さんは1~2年ごとに変わりますが、みんな優しくて良い子ばかりで本当に感謝しています。いつまでも生徒さんたちと話ができるよう元気でいたいと思います。

今年7月、盲学校の生徒さんたちとの交流会『海に親しむ会』を行いました。これは僕たち

が全てを企画・運営する初めての会です。皆さんが安全に楽しく過ごせるよう、打ち合わせを

何度も繰り返し、本番に臨みました。実際に接

してみて、自分が不自由とはいっても、ちょっと介添え

をしてあげれば、全く問題なく一緒に遊べることがわかりました。しかし最初の頃は、どのように手を差し伸べたらよいのかわからず、ギクシャクしてしまったように思います。交流を重ねることによって、障害も二つの個性であり、社会は色々な人がいて成り立っているということを感じるようになりました。今は自然に友人としてつきあえることを嬉しく思っています。

年に2~3回、安城学園高校の生徒さんたちが来て下さるのを、本当に楽しんでいます。来ていただく生徒さんは1~2年ごとに変わりますが、みんな優しくて良い子ばかりで本当に感謝しています。いつまでも生徒さんたちと話ができるよう元気でいたいと思います。

今年7月、盲学校の生徒さんたちとの交流会『海に親しむ会』を行いました。これは僕たち

が全てを

学びの泉『学泉塾』がスタート！

本学園では地域の誰もが学べる環境を提供したいとの思いから、「学泉塾」をスタートさせました。先陣を切って開催された安城では既に4回、そして岡崎では現在開催準備が進められています。これまでに行われた学泉塾の様子をご紹介します。

安城学泉塾

共催／安城市商店街連盟あきんど塾

第1回 2月27日(日) 「スーパーおやじの痛快まちづくり」

講師
早稲田商店会会長 安井 潤一郎氏

商店街の夏枯れ対策として始めた「エコサマーフェスティバル」「ゴミゼロ平常時実験」など、環境を切り口にした「楽しく儲かるまちづくり」というユニークな安井理論を受講者に説きました。



▲第3回「森づくりから安城のまちを考える」
日本や中国、東南アジアなどで実施されている森づくりについて、スライドを交えての講演となりました。

第2回 4月23日(日) 「フレイブルグから安城のまちづくりを考える」

講師
ドイツ環境局 坂田 史夫氏
愛知学泉大学 小谷野 錦子氏
豊田市環境政策課 原田 裕保氏

環境先進都市 ドイツ・フレイブルグ市民のまちへの愛情、環境に対する意識の高さ、そしてドイツと日本の環境政策の違いなどを学び、安城におけるエコ活動の可能性を探りました。

第3回 6月24日(土) 「森はいのち森づくりから安城のまちづくりを考える」

講師
横浜国立大学名誉教授 宮脇 昭氏

商品としての植林などは全く異なる、生物の多様性を育む森づくりについて学びました。文化を守り命を子どもたちにつないだために、まちづくりの中で森との共生を目指す道について考えました。

第4回 10月14日(土) 「地域通貨から安城のまちづくりを考える」

講師
NPO政策研究所専務理事 内山 博史氏
名古屋新大門商店街振興組合青年部 山本 幸太郎氏

地域を活性化させる新たなまちづくりツールとして、世界2600ものコミュニティで試みられている「地域通貨」について、実際にどのように利用されているのか、お2人の講演から学びました。

第1回豊田学泉塾 7月16日(日)※内容は第1回安城学泉塾と同じ

●学泉塾のお問い合わせは
安城学泉塾／TEL (0566) 76-5105 (安城学園高等学校)
豊田学泉塾／TEL (0565) 35-1313 (愛知学泉大学)

パソコン上達
始めました。

昨年の夏休み、大学主催のパソコン講座で講師補助を務めた時、「継続的に講座をやって欲しい」そんな声を多くの受講者から聞きました。アシスタントの経験から、自分たちでも十分できるとの手ごたえもあり、さっそく自分が身につけられると思ったからです。これがきっかけで、自分たちで行うことにより、将来必要な経験を積んで楽しかったようです。せっかくパソコンの使い方を覚えたので、これからはどんどん活用していきたいと思います。

●受講者のお話



彼らの自主性を非常に頼もしく感じています。彼らの教室が好評なのは、そういうニーズに合っているからだと思います。

■これまでに開催した講座

インターネット入門講座

1回3時間／3日間 費用:1,500円

エクセル入門講座

1回3時間／2日間 費用:1,000円

初心者向けウンドウズ入門講座

毎週2回／全8回コース 費用:8,000円

●冬休みも各種講座を開催します！
日程等については、下記までお問い合わせ下さい。
情報生活研究会 TEL (090) 9185-4526 (講座受付担当:高野まで)

学びの Saturday『土曜講座』『オープンセミナー』

安城学園高校と岡崎城西高校では、学校週5日制導入を契機に土曜日を地域の方々へ開放しています。土曜講座、オープンセミナーとも月一回程度開催し、いずれも、生徒・保護者以外に地域の方々もご参加いただけます。学術的なものから趣味的なものまで多様な講座が用意されています。※日程等は両高校へお問い合わせ下さい。

◆岡崎城西高等学校『オープンセミナー』

岡崎城西高校のオープンセミナーは、地域の方々に同校の生徒と教員が講師となって講座を開くものです。「パソコン・韓国語・英語」などの情報・語学系講座、「サッカー・テニス・ハンドボール」などのスポーツ系講座、「クラシックギター・和太鼓・フラメンコ」などのダンス・音楽系講座など多種多様です。毎回、人気の講座は定員を大きく上回ります。地域の皆さんと土曜のひとときを楽しく過ごしたいと思います。ぜひ一度ご参加下さい。



●受講者のお話

「サックスを吹こう」
「サックスを吹いてお話をうけた」とおっしゃっていました。

岩月里穂ちゃん・沙耶ちゃん
(岡崎市在住) 小学生4年生

杉浦 茂子さん (岡崎市在住)
大澤 美佐子さん (岡崎市在住)

杉浦さん「このような公開講座で、サックスのセミナーでなかなかありません。市報で知って早速申し込みました。」

大澤さん「横浜から引っ越してきたばかりなので、大好きなサックスが縁でお友達を作れると嬉しいですね。」

●お問い合わせ TEL (0564) 31-4165 (代表)

◆安城学園高等学校『土曜講座』

安城学園高校の土曜講座は、生徒・保護者・市民・教員の誰でも講師を務めることができます。誰でも受講できます。外部からプロ講師を招いて行う「ガーデニング教室」「犬のしつけ・美容体験」「そば打ち」、教員や生徒が講師を勤める「草木染め」「パソコン入門」、校外で行うフィールドワーク「カヌー」「野菜づくり」など、講座の多さも自慢です。ぜひ友人・知人を誘ってご参加下さい。また、土曜講座とは別に高校近隣の市民の方のみを対象にした「安城学園公開講座」も開講しています。



●受講者のお話

深津 光枝さん

(安城市在住)

岩月里穂ちゃん・沙耶ちゃん
(岡崎市在住) 小学生4年生

「体が不自由になったときの心の準備をしたいと思い参加しました。ゴーグルをつけての白内障体験では、視力が衰えるとこんなにも不安なものなのかと実感できました。貴重な体験ができてよかったです。」

●お問い合わせ TEL (0566) 76-5105 (代表)

愛知学泉短期大学家政科

一緒に楽しもう！『こどもワープロ講座』

毎年夏休み、家政科の学生が講師を務め、矢作東小学校の生徒3・4年生を対象に「こどもワープロ講座」が開催されています。今年も7月31日に37名の児童を対象に岡崎キャンパスで開催されました。

家政科1年 長越 久美さん

私たち家政科の情報演習ゼミでは、日頃の学習成果を地域の皆さんに還元しようという目的でこの講座を開催しています。私が教えた片山恭平君は4年生です。ワードを使って一緒に《家族新聞》を作りましたが、とても熱心にやってくれました。ただ、おとなしい子で、あまりおしゃべりできなかったのが残念！先輩たちに習って、彼を大学祭へ招待しようと考えています。次に会う時はもっと打ち解けてくれるでしょうか？



はじめは子どもとふれあう機会の少ない学生の経験の場として企画された講座ですが、小学校の先生や保護者からご好評をいただき、毎年恒例の夏休み企画となっています。

愛知学泉大学・短期大学

身近な問題をわかりやすく『岡崎市民力レッジ』

岡崎市、市教育委員会との共催で、本学の教授陣が講師を務めて開催する岡崎市民力レッジ。

今年も昨年に引き続き「生活と環境を考える」をテーマに、6月24日～7月29日の毎週土曜日に行われました。本講座は毎年の恒例企画となっていますので、来年も開講する予定です。講座は全6回の予定ですが、1講座だけの参加も可能です。ご興味のある方は、どうぞ下記までお問い合わせ下さい。

■今年行われたテーマと講師

第1回 6月24日 現代若者ことば事情…………… 小六 英介教授

第2回 7月 1日 環境としての「ひと」～人間関係の中での発達と生活～ 堀 美和子講師

第3回 7月 8日 日常ににおけるファッショ～カジュアルからフォーマルまで～ 山本 豊講師

第4回 7月15日 若さを保つために～ビタミン、ミネラルを中心に～ 山内 理充講師

第5回 7月22日 今日の子育てと心の問題について…………… 角田 春高教授

第6回 7月29日 健康寿命をのばすために何が必要か…………… 堀江 和代教授

●参加者のお話 (第3回「日常におけるファッショ～」を受講した40代女性)

今回のファッショ～についての講座は講義している私たちも試着などで一緒に参加でき、大きな感動を感じました。おしゃれに関心があるものの、素材や色の組み合わせ方など、自分ではどうしたらいいのかわかりませんでした。これからは今回の講座で勉強したことを役立て、コーディネートを楽しめそうです。

●岡崎市民力レッジのお問い合わせは
TEL (0564) 34-1212 (代表)



学校 活用法

あなたのご意見大募集!

安城学園は、「地域と共につくる学校」をテーマとしています。

ゆめっとプラザでは、「地域における学校の役割」について皆様のご意見を募集しております。

ex.「土曜日や夏休みにこんなセミナーをやって欲しい」「市民講座でこんなことができないか」

「企業と共に催すこんなイベントをやりたい」「地域の方々とこんな交流をしてみたい」

どんなご意見・ご要望でも結構です。ご応募は、下記のFAX、Eメールまたは郵送にて

お願いします。素敵なご意見・ご提案を送っていただいた方の中から、抽選で合計60名様に

『エコグッズ』(エコグッズ“エマーブル”、キャンバストートバッグ各30名様)をプレゼントします。

どしどしぱクス・Eメール・お便りをお寄せください。お待ちしております。

※なお、当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。

■応募締切日:2001年1月31日(消印有効)

環境にやさしい
エコグッズをプレゼント

『エコグッズ“エマーブル”』
●30名様

『WWFキャンバストートバッグ』
●30名様

抽選で合計60名様に!!

缶の穴あけや栓抜きは
もちろん、スプレー缶のガス抜き、牛乳パック等の
口開けにも使える、多機能エコグッズです。



ご意見コーナー

お名前	職業(学校名)	年令
住所 〒	TEL()	-
希望商品名(いずれかに○をおつけ下さい) エコグッズ“エマーブル” キャンバストートバッグ	今回の掲載記事の中で面白かったもの	

FAX送付先 (0566) 77-7692

E-Mail: kouho@gakusen.ac.jp

郵送先 〒446-8635 安城市小堤町4-25 安城学園広報まで

『地域公開セミナー&イベント』今後の予定

安城学園高等学校 第8回 オータムコンサート

日 時: 11月23日(祝) 14:00~(13:30開場)
場 所: 豊田市コンサートホール(参合館10F)

問い合わせ先: 安城学園高等学校

TEL0566-76-5105(代表)

入場
無料

愛知学泉大学コミュニティ政策研究所 第6回 シンポジウム

日 時: 11月25日(土) 14:00~17:00(13:30開場)
場 所: 崇化館(豊田市)

テーマ: 地域社会づくりへのNPOの役割

問い合わせ先: 愛知学泉大学コミュニティ政策研究所

TEL0565-35-7098(直通)

入場
無料

愛知学泉大学パソコン講座「ワード入門講座」

期 日: ①12月9日(土) ②12月10日(日) 学生が講師です

問い合わせ先: 愛知学泉大学情報センター

TEL0565-35-7098(直通) 受講料: 1,500円

岡崎城西高等学校 和太鼓「彩輝」第3回定期演奏会 鼓響

日 時: 12月16日(土) 14:30~(14:00開場)
場 所: 岡崎市せきれいホール

問い合わせ先: 岡崎城西高等学校

TEL0564-31-4165(代表)

入場
無料

安城学園高等学校 吹奏楽部 第26回定期演奏会

日 時: 2月17日(土) 17:00~(16:30開場)
2月18日(日) ①13:00~(12:30開場) ②16:30~(16:00開場)
場 所: 安城市民会館

問い合わせ先: 安城学園高等学校

TEL0566-76-5105(代表)

入場
無料

愛知学泉大学オーケストラ 第3回 定期演奏会

日 時: 12月13日(水) 19:00~(18:30開場)
場 所: 豊田市コンサートホール(参合館10F)
入場料: 1,000円

ソリスト/堀 正文氏(NHK交響楽団ソロコンサートマスター)

問い合わせ先: 愛知学泉大学 国際交流室

TEL0565-35-1316(直通)

第1回 知立学泉塾

日 時: 2001年1月14日(日) 19:00~21:00

場 所: リリオ・コンサートホール

テーマ・講師: 第1回安城学泉塾に同じ(P.11参照)

問い合わせ先: 安城学園高等学校

TEL0566-76-5105(代表)

入場
無料

第2回 豊田学泉塾

日 時: 12月16日(土) 19:00~21:00

場 所: 豊田産業文化センター

テーマ: 地域通貨から豊田のまちづくりを考える

問い合わせ先: 愛知学泉大学

TEL0565-35-1313(代表)

入場
無料